

令和2年度西総合支援学校 学校評価実施報告書(前期)

1. 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

児童生徒が継続的にキャリアアップすることを目指し、個別の包括支援プランによる支援を行い、児童生徒の「生きる力（生活の質を高める力）」を育む

① 前期の取組について

- ・学校教育目標である「『できる』自分を知り、夢や希望を持って、自らひと・もの・ことに向かう子どもを育てる」の達成に向け、今年度の指導の重点として「教育活動全般における“つながり”を意識した教育の推進」を挙げた。「つなぐプロジェクト」を教育課程委員会の小プロジェクトとして立ち上げ、子ども一人一人の全ての学習場面における「できる」が、より有機的につながるように方法を模索している。
- ・「子どもの『できる』からスタートする授業づくり」を研究の全体テーマとし、各部でテーマを設定して定期的に学部研究会を実施しながら、授業改善の取組を進めている。コミュニケーション指導の充実についても取組を推進する。
- ・参観日の保護者アンケートでは、概ね「授業のねらいは明確である」「課題に応じて工夫された学習内容である」「適切な支援が行われている」という評価をいただいている。

② 自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・「つなぐプロジェクト」では、子どもたちが多くの場で力を発揮している様子を、様々な立場の教職員が共有し、それぞれの授業づくりに活かしながら、いかに連携していくかを検討している。
- ・小学部では、スマールステップを重視した授業改善を、評価シートを活用しながら進めている。
- ・中学部では、「地域共動」学習に焦点をあて、子どもと地域・社会とのつながりを広げ、深める取組を進めている。より詳しく子どもの「できる」様子を把握し、効果的な学習方法等を検討して、全ユニット担当者で共有している。
- ・高等部では、短期目標の取組場面の映像をもとに、ワーク担当者会で授業改善について話し合っている。また、ワークスタディや実習における生徒の学習の成果や課題が伝わりやすく、支援・手立てを改善しやすいように作成した記録用紙を活用し、情報を共有している。
- ・高等部における居住地域の中学校、出身中学校との交流及び共同学習においては、感染拡大防止のため、ウェブ会議ツールを活用して取り組んでいる。
- ・プログラミング学習の場を広げ、楽しみながら自ら問題を解決しようとする力を育んでいる。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・様々な立場の教職員が情報共有を行ないながら授業改善を進めたことで、多くの学習場面における子どもの「できる」を活かした「より質の高い授業」ができるようになってきている。連携しながら、さらに授業改善を図って、子どもの「できる」を育んでいきたい。
- ・学校における「できる」を活かす教育の推進が、家庭・地域に広がり、将来につながるように取組を進めていく。
- ・各部の授業改善やコミュニケーション指導、「つなぐプロジェクト」に関する取組を研究報告会で共有し、実践に活かしていく。

③ 学校関係者評価（第2回学校運営協議会）

授業見学の後、本校の授業や子どもたちの様子について様々なご意見をいただいた。

- ・授業を参観して、子どもたち一人一人が理解して活動しやすいように、印や写真、手順等が用意され、場づくりが工夫されていてよかったです。
- ・コロナ禍の中ではあるが、学校で子どもたちが楽しく過ごしている様子をみることができた。この状況を乗り越えていきたいと思った。

2. 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

学校や地域の中でできる成功体験を積み重ねることにより、自己の将来に夢や希望を持ち、自らの人生を切り拓こうとする力を育てる

① 前期の取組について

- ・始業式や終業式、全校集会等において、校長が、「あそべ（挨拶、掃除、勉強）」の励行について、子どもたちが熱心に取り組む様子を映像で紹介しながら、全校児童生徒に話をしている。
- ・芸術活動や創作的な活動に取り組むユニットが各学部で編成されており、様々な学習場面で創作活動に取り組んでいる。3年前から「アトリエ西総合」という授業を行っており、外部講師を招いて、抽出児童生徒への絵画・造形に関する授業を実施している。
- ・昨年度新しくできたウッドデッキを活用して、豊かな心を育む学習に取り組んでいる。
- ・環境にやさしく、環境について学ぶ場となる緑のカーテンの取組を、今年度も実施した。
- ・高等部生徒が、グラウンドの芝生の手入れに取り組んでいる。
- ・例年実施されている桂坂統一クリーンデーの呼応清掃活動として、児童生徒による清掃及び教職員による清掃に取り組む。
- ・コミュニケーション指導において、自分の思いを伝える学習等の充実を図っている。

② 自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・学校生活において、自分から挨拶できる場面が増えてきている。進路の学習等、授業で挨拶について学び、実際の場面で取り組んでいる。
- ・校内や学校周辺等の清掃活動に熱心に取り組んでいる児童生徒が増えてきている。
- ・子どもたちが、興味関心や好きなことを活かして制作した作品を玄関ギャラリーに展示することで、子どもも教職員も関心、意欲が高まっている。地域では、後期に例年3か所で開催する「地域作品展」に加えて、市内のギャラリーに作品が展示される機会が増えている。
- ・中学部ワークスタディ（木工）で、ウッドデッキ等で活用できるベンチの制作を行っている。
- ・高等部では、茶道の先生をお招きして、ウッドデッキで茶道体験を行なっている。
- ・緑のカーテンでは、高等部生徒が役割を担って、水やり等に自主的に取り組むことができた。
- ・芝生グラウンドの冬芝の種まきにおいて、NPO法人「芝生スクール京都」の方とともに、高等部生徒がワークスタディの学習において、友だちと協力しながら作業に取り組んでいる。
- ・言語聴覚士や情報教育専門家、医療福祉コーディネーターと連携することや、外部専門家からのアドバイスを資料や研修会で教職員が共有することで、構音指導や、言葉や絵カード・表情や身振り・機器等を用いたコミュニケーション指導の推進が図られている。
- ・スクールカウンセラーだより「くる」には、心と体を整える内容等が掲載されている。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・学習内容や状況づくりを工夫し、校内及び地域において、より多くの人に見てもらう場を設定することで、児童生徒のさらなる創作意欲や自己肯定感を育成していきたい。
- ・ウッドデッキ等を活用し、地域や社会とのつながりのある学習を開いていきたい。
- ・コミュニケーション指導では、専門的な視点を踏まえるとともに、一人一人に応じて指導方法を工夫し、生活場面に活かすようにしていきたい。自分の思いを伝える力を高め、コミュニケーション行動が充実することは、自主性や自信につながるという視点も大切にしていきたい。

③ 学校関係者評価（第2回学校運営協議会）

- ・卒業生の作品が展示会に出品されたり、海外でも広く認められたりしている。子どもが遊びとして作っていたものが芸術として評価されている。
- ・子どもたちが熱心に遊んでいる様子等を見ながら、本人の何を伸ばしていくか、その可能性を考える視点が大事である。
- ・コミュニケーションでは、何がしたいか等、本人が伝えたいことを発信できることが大切である。P ECSや機器の活用等、一人一人に応じたコミュニケーション指導の推進が重要である。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自分の体と心に気づき、環境とのかかわりの中で、より健康で安全な生活を送ろうとする意欲と技能を育てる

① 前期の取組について

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「感染症対策マニュアル」を作成し、以下の取組等を行なっている。

①健康観察・体調管理

- ・家庭での検温や健康観察をお願いし、記入していただいた健康観察票を持参している。
- ・学校で検温を実施している。

②手洗い・消毒

- ・登下校時に手指の消毒を行なっている。手洗いをしっかりする。
- ・授業終了後、毎日、教職員が校舎内を拭き掃除し、消毒する。

③換気・社会的距離

- ・マスクをつけるようにする。教室の換気を行なう。密にならないようにして活動する。
- ・各学部で、マスクの正しいつけ方や手洗い等の感染予防の学習を行なっている。
- ・医療的ケア検討委員会を随時開催し、学校医や主治医の意見を参考にしながら、児童生徒の健康・安全管理に努めている。
- ・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)に来校していただき、「身体の動き」の指導に関する助言をいただいている。
- ・訓練等実施状況は、避難訓練は1回／年、緊急時シミュレーションは3回／年である。

② 自己評価

【分析(成果と課題)】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の取組については、点検・確認を行ないながら進めている。
- ・スクールバスの過密を避けるため、一部の児童生徒がマイクロバスを利用して登校している。
- ・健康に関する取組については、確実に実施し、情報共有を図れている。
- ・PT・OT等の外部専門家については、支援部と各学部が連携しつつ取り組むことができている。
- ・性教育の実施については、内容等について様々な場で相談しながら行なっている。年次別研修として、授業公開や事後研究会を実施し、指導内容や支援について協議を深めている。
- ・災害時や緊急時の対応について、マニュアルを作成し、教職員の共通理解を図っている。PTA主催で、学校に個人用非常持出袋を保管する取組を実施している。
- ・感染予防教室については、インフルエンザ流行時に、生徒が1名利用している。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の取組については、保護者理解を得ながら取り組んでいく。
- ・児童生徒の健康の維持増進に引き続き取り組む。
- ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員の身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制で行なえるよう指導体制を整える。
- ・性教育については、全体研修で学んだことを性教育に関する年間指導計画(各学部・各学年)に活かし、さらなる充実を図る。
- ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。
- ・土砂災害を想定した避難訓練を今年度も実施し、検討する。

③ 学校関係者評価（第2回学校運営協議会）

感染拡大防止に関して、下記のようなご意見をいただいた。

- ・授業参観や会議において、新型コロナウイルス感染症対策に関して、実際の様子を見て共有できたことが貴重である。
- ・感染症対策を行なっている学校の状況や取組を地域の方に知っていただくことが大事である。
- ・学校も地域も感染拡大防止に関して、それぞれに様々な工夫を行なっていることがわかった。学校での取組や使用物品を参考にして地域でも活用していきたい。

4. 学校独自の取組

重点目標

地域や保護者との連携を深め、学校と地域の双方向の援助による新たな「地域」の創造を図るとともに、地域の障害のある児童生徒、保護者、教員のキャリアアップを支援する「育」支援センターを機能させる

① 前期の取組について

- ・学校運営協議会の基本方針を「学校から地域へ、地域から学校へ 一雙方向の援助による新たな「地域」の創造」と設定し、「市民ぐるみ・地域ぐるみの学校づくりを推進する」「地域と協働・連携し、子どもたちのキャリアアップを支援する」「障害のある子どもの『学び』と『育ち』を支える地域づくりを推進する」の3点をねらいとして、学校運営協議会での検討内容が学校支援活動に繋がるように取組を進めている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は、「校区地域交流会」「にこにこクラブ（施設の方々との交流）」等は中止となった。
- ・同じく、例年、本校児童生徒と地域の方々との交流の場となっている「芝生まつり」も中止となつたが、芝生まつり開催時に、「福祉施設等合同説明コーナー」にて来校者に配布していた「福祉施設等合同紹介冊子」は今年度もPTA本部役員により作成されており、保護者や学校運営協議会委員等に配布する。
- ・昨年度まで、「サマースクール」として、地域に出かけたり、地域の方に来校していただいたりしながら、体験活動等を通して交流する取組を実施していた。暑さのため、昨年度より夏季に全校一斉で行なうことにしていないが、「サマースクールを活かした取組」を進めており、今年度は、校区にお住まいの方に来ていただいて、紙芝居や腹話術等の鑑賞を行なう。
- ・ふるさと納税制度を活用して学校ごとに寄付を募る「母校を応援！京都市立高校・総合支援学校支援事業」が始まり、京都市教育委員会のホームページに、本校の特色のある取組が紹介されており、地域の桂坂でも広報される。

② 自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・地域との双方向の援助及び協働により、それぞれの人が自分の役割に応じて学校運営に参画するコミュニティ・スクールを目指し、学校運営協議会において、「キャリアアップ支援プロジェクト」「地域とともにプロジェクト」「学校評価・管理プロジェクト」の3事業を展開している。
 - ①キャリアアップ支援プロジェクト… 子どもの「できる」を活かす教育推進の支援と、地域での生活を豊かにするための学習展開の支援。
 - ②地域とともにプロジェクト… 障害のある児童生徒にとっての身近な生活の場単位での「学びと育みの場づくり」を目指す地域活動を推進。
 - ③学校評価・管理プロジェクト … 学校に対する地域からのニーズを踏まえた教育活動や地域と連携した実践事業について計画、実行、検証。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・地域の方へ障害のある子どものことや総合支援学校の取組を発信することについては、「地域とともにプロジェクト」における地域活動の取組の充実や新たな取組等について、学校運営協議会において熟議を深めていき、「学校運営協議会レポート」や、学校運営協議会委員の方が作成する地域の広報誌「桂坂」等に記事にしていただき、発信していきたい。
- ・テレビ会議システムを使った直接支援等で専門家を活用することにより、センター機能の充実を、専門性を活かしながら図る。

③ 学校関係者評価（第2回学校運営協議会）

- ・「芝生まつり」「西京区卓球バレー交流会」「校区地域交流会」「にこにこクラブ（施設の方々との交流）」等の地域活動が、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となり、たいへん残念だが、来年度には連携しながら実施できることを願っている。
- ・コロナ禍ではあるが、地域の方といかに心の距離を縮めるかが課題である。